

On the “Tale of Balin and Balan”:
A Comparative Study of Thomas Malory and Alfred Tennyson

大脇桂子

本論は、Malory の『アーサー王物語』と Tennyson の『国王牧歌』に登場する Balin の比較研究である。それぞれの作品における Balin 像は大きく異なっている。その違いが何によってもたらされたものかを調べた。Chapter 1 では、Malory における Balin の性質を彼の言動描写から考察した。さらに、その性質と彼の悲劇的な死との関連性を探った。Chapter 2 では、Tennyson における Balin の性質を考察し、とりわけ Malory の Balin と異なる側面について論じた。Chapter 3 では、まず Malory と Tennyson で Balin の描写の共通点と異なる点を挙げた。その上で、Balin 像の差違がもたらされた原因を Tennyson 側の視点から考察した。

Malory は軽率で豪胆な性格の人物として Balin を描いている。加えて、Balin は自身の判断の正しさを疑うことなく、即断即決の行動を起こす点も注目すべき特徴である。一方、Tennyson は自身の暴力性に怯え、自己疑念・自己否定に満ちた人物として Balin を描いた。

この真逆とも言える違いは、それぞれの作品において Balin に与えられた役割が異なるためであると考えた。Malory は Arthur の行く末を暗示するために Balin を Arthur になぞらえ、『アーサー王物語』の探求者として Balin を描いたと考察される。一方、Tennyson は Balin を Arthur の対極に位置づけ、理想を追い求めて苦悩する現実世界の生身の人間像として描いたと考えられる。Tennyson がこのように改変した理由として、ヴィクトリア朝を生きる人々に警鐘を鳴らし、現実社会の様々な矛盾を克服し、人々が各自の可能性を開花させていくためには正しい模範を持つ必要性を訴えるためであったことを挙げた。以上のように、作者の意図する点が異なるために人物像が大きく異なっていると結論した。